

## 令和 4 年度 西蒲区組織目標

組織名	西蒲区	区長	西蒲区長 鈴木 浩行
組織の 目的・ 方向性	<p><b>I 広大な農地を活用した食・農業の高付加価値化と農業経営の安定化の推進</b> 市内の 25%強の広大な経営耕地面積を有し、多種多様な農業の営みを背景に育まれた本区の豊かな「食・農業」の高付加価値化と農業経営の効率化・安定化を進め「もうかる農業」を目指します。 また、米政策の変革や大きな環境変化を的確に捉え、将来の地域農業の方向性を話し合い、人・農地プランの見直しを図るとともに、地域の中心経営体強化と農業経営安定化に向けた土台づくりを進め、持続可能な農業の確立を目指します。</p> <p><b>II コロナ禍により影響を受けている観光産業の需要回復に向けた支援とアフターコロナを見据えた観光誘客の加速化</b> 長引くコロナ禍により区の基幹産業である観光業への影響が今なお続き、地域全体の産業に波及しています。引き続き観光業等の事業継続及び雇用の維持ができるよう、感染状況を見据えながら効果的な支援策を講じます。また、アフターコロナを見据えながら新たな観光コンテンツなどを活用し国内外に積極的に発信するとともに、誘客促進事業について地域事業者と協同で取り組み、観光需要の回復を加速させます。</p> <p><b>III 未来を見据えたまちづくり～市民との協働、地域と連携による安心・安全で住んで良かったまちづくりの推進</b> 区民との協働や地域との連携を図りながら地域と一体となって地域課題解決と未来を見据えたまちづくりに取り組むとともに、災害に強く安心安全で区民が住んで良かったと言えるまちづくりを進めます。また、人口減少対策に取り組みながら乳幼児からお年寄りまで、障がいのある人もない人も誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、地域で支えあう仕組みづくりを目指し、地域包括ケアシステムの構築を進めるとともに、自分の健康は自分で守ることを目的に健康管理に対する意識の醸成を図り健康寿命の延伸につなげる健康づくりを推進します。</p>		

## 西蒲区組織目標

**I 広大な農地を活用した食・農業の高付加価値化と農業経営の安定化の推進**

米に並ぶ高収益作物の導入を推進していく中で、「にしかん なないろ野菜」の更なるブランド化を進めるため、野菜の配送費を補助するなどして飲食業者との取引につなげ、販路拡大し産地としての地盤を強固なものとしていきます。

農業者の高齢化および米価下落等で農業の低迷が続いている中、離農による遊休農地化を防ぐため、農地保全活動の促進、担い手への農地の集積、集約を推進していきます。

## Ⅱ コロナ禍により影響を受けている観光産業の需要回復に向けた支援とアフターコロナを見据えた観光誘客の加速化

未だ影響を受けている観光業等について、効果的な事業継続のための支援を引き続き実施するとともに、個人旅行客や小グループをターゲットに誘客を行い、コト消費を楽しめる西蒲区の魅力を、統一したブランディングで発信し誘客につなげます。

二次交通（新潟ウエストコーストライナー）は佐渡汽船からの新路線と既存路線の増便により、関西・中京・首都圏に加え、佐渡からの誘客、観光プロモーションや旅行エージェントセールス等積極的に実施し、アフターコロナを見据えながら、ウィズコロナに対応した観光需要の回復を図ります。

## Ⅲ 未来を見据えたまちづくり～市民との協働、地域と連携による安心・安全で住んで良かったまちづくりの推進

(1) 安全で災害に強いまちづくりを進めるため、地域防災の担い手となる中学生の防災教育を支援し、自助・共助による地域防災力の向上を図ります。

(2) 地域包括ケアを推進するため、支え合いの仕組みづくり推進員等と連携しながら、地域の茶の間をはじめとした住民主体の共助の仕組みづくりを継続して支援していきます。

(3) 健康寿命の延伸を図るため、新型コロナウイルス対策を行いながら、健康教育等を実施し、生活習慣の改善に向けた行動変容について継続して周知啓発していきます。

この方針のもと、今年度は、次の5つの目標に重点的に取り組みます。

### 重点目標

1 「にしかん なないろ野菜」の更なるブランド化に向け、飲食業者との定期的な取引とイベントの開催・参加による販路拡大。また、農地の維持活動を通じて、多面的機能の維持向上、地域資源の適切な保全。

【指標：飲食業者において定期的な取引を行う店舗数・販路拡大のためのイベント開催・参加、農地維持活動取り組み面積率】

2 アフターコロナを見据えながら、ウィズコロナに対応した新たな魅力を発信することで、交流人口の拡大を図る。また、二次交通やにしかん地域の観光スポットを結ぶ三次交通などを通じて県内外からの誘客を促進し、地域経済の活性化を図る。

【指標：観光周遊バス利用者数・新たなプロモーションツールを活用したエージェントセールス実施回数】

3 にしかん地域防災共育事業の推進

【指標：にしかん地域防災共育事業の実施校数】

4 日常生活圏域の各圏域において、地域の茶の間及び住民主体の訪問型支援サービスを創出。

【指標：新規創出件数】

5 子どもからお年寄りまで各年代向けに、にしかん健康プロジェクトや健康寿命延伸事業を実施。

【指標：生活習慣病予防の健康教室参加者、ウォーキング記録提出者数】

※重点目標における指標や取組状況は、各課組織目標をご覧ください。

## 評価

取組結果	重点目標の達成状況	目標数	5	達成数	5
	<p>1 「にしかん なないろ野菜」の更なるブランド化に向け、飲食業者との定期的な取引とイベントの開催・参加による販路拡大。また、農地の維持活動を通じて、多面的機能の維持向上、地域資源の適切な保全。  <b>【指標：飲食業者において定期的な取引を行う店舗数・販路拡大のためのイベント開催・参加、農地維持活動取り組み面積率】</b>            &lt;&lt;飲食業者において定期的な取引を行う店舗数&gt;&gt;                目標 5件      実績 5件            &lt;&lt;販路拡大のためのイベント開催・参加&gt;&gt;                目標 3件      実績 4件            &lt;&lt;農地維持活動取り組み面積率&gt;&gt;                目標 93.5%    実績 93.6%</p> <p>2 アフターコロナを見据えながら、ウイズコロナに対応した新たな魅力を発信することで、交流人口の拡大を図る。また、二次交通やにしかん地域の観光スポットを結ぶ三次交通などを通じて県内外からの誘客を促進し、地域経済の活性化を図る。  <b>【指標：観光周遊バス利用者数・新たなプロモーションツールを活用したエージェントセールス実施回数】</b>            &lt;&lt;観光周遊バス利用者数&gt;&gt;                目標 2,900人    実績 3,263人            &lt;&lt;新たなプロモーションツールを活用したエージェントセールス実施回数&gt;&gt;                目標 4回        実績 5回</p> <p>3 にしかん地域防災共育事業の推進  <b>【指標：にしかん地域防災共育事業の実施校数】</b>                目標 2校        実績 2校</p> <p>4 日常生活圏域の各圏域において、地域の茶の間及び住民主体の訪問型支援サービスを創出。  <b>【指標：新規創出件数】</b>                目標 3件                実績 3件（月1回の地域の茶の間1件、住民主体のサービス2件）</p>				

	<p>5 子どもからお年寄りまで各年代向けに、「にしかん健康プロジェクトや健康寿命延伸事業を実施。</p> <p>【指標：生活習慣病予防の健康教室参加者、ウォーキング記録提出者数】</p> <p>目標 3,625人以上</p> <p>実績 4,259人（健康教室等4,114人、ウォーキング記録145人）</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">今後の方向性</p>	<p>1 米に並ぶ高収益作物の導入を推進していく中で、「にしかん なないろ野菜」の更なるブランド化を進めるため、マルシェなどへの出店販売を引き続き行います。また、さまざまな事業者や学校などと連携し、認知度向上を図る事業を実施し、販路拡大につなげます。</p> <p>農業者の高齢化および米価下落等で農業の低迷が続いている中で、離農による遊休農地化を防ぐため、担い手への農地の集積、集約を推進し、併せて農地保全活動の促進に取り組みます。</p> <p>2 引き続き西蒲区の魅力を発信することで、県内外からの誘客を促進し、交流人口の拡大及び地域経済の活性化を図ります。</p> <p>3 安全で災害に強いまちづくりを進めるため、区内の6中学校を対象とした地域防災共育の実施により、地域・防災士・行政・専門家等で支える学校防災共育体制の整備と、継続的かつ効果的な地域の防災活動への支援を行います。</p> <p>4 地域包括ケアの深化に向けて、地域の茶の間や住民主体のサービス創出など、支え合いの仕組みづくり推進員等と連携しながら継続し支援していきます。</p> <p>5 健康寿命の延伸を図るため、健康教育等を実施し、生活習慣の改善に向けた行動変容の重要性等について、継続して周知啓発していきます。</p>